

佐保川小学校学習支援レポ
校庭の自然観察
「寒い冬に木々たちは」

小島 武雄

令和7年1月27日(月)朝9時、佐保川小学校校庭にスタッフが集まりました。曇り空、気温は11度くらい寒い朝です。4年生の27人と、32人で午前中の2時間。9時30分と、10時35分それぞれ45分間授業です。

当会から山本、桜木、飯島、東、足立、小島が講師として参加、千載会長も来てくれました。校庭の「佐保川の森」の樹木17本が対象です。番号札を取り付けての準備と、説明補足に持参したクロガネモチの葉と実、ドングリ、カエデの種、銀杏の実などを各ポイントに配置し、それぞれの木の状況を確認していきます。

始業チャイムと同時に子どもたちが飛び出してきました。半袖半パンの子もいて寒くないの?とビックリ。

最初に子どもたちを前に「これからやってくる春に向けて、一気に花や葉っぱを成長させるため準備している、冬芽を見に行きます」と挨拶。簡単な自己紹介をして3班に分かれて、はじまります。



<樹木、地図資料>

主な樹木は、クスノキ、ハナミズキ、クヌギ、コナラ、アラカシ、イロハモミジ、ビワ、ヒラドツツジなど。子どもたちみんな、それぞれの小さな芽を探し、見つめ、木肌に触れ、ドングリの大きさの比較や殻斗を手に取ります。そして、「お家で育ててね!」と持ち帰り用の根の出たドングリを見せます。

イロハモミジのプロペラ状の種が、クルクル回って落ちる所をみんなでやりました。種が風に飛んだり、鳥に食べられて遠くに行ったり、

服にひっついて広がる話をし、種の見本を貼ったパネルは、先生へ。

赤い実のついたクロガネモチの葉に文字が書ける様子を見せます。事前に教室に送ってあった、タラヨウハガキは見たかな?と確認。「あった、あったよ!壁に貼ってある。字書きたーい!」の声に「皆にタラヨウの葉を一枚と、木の筆をプレゼントしますよ」と伝えました。

最後に、広場に出て持参したフタバガキの種が、クルクルと勢いよく空に舞うのを見せました。歓声が上がります。



<くるくる回る模型>

輪ゴムで種を、空に飛ばしクルクル回る体験もしました。初めは、うまく出来ませんでした。コツをつかんでからは、校庭を走り回り、何度も夢中になって空に飛ばしていました。休憩時間が過ぎて、先生の笛でやっと終わり、模型は大事にポケットへ。

あっという間の2時間です、今日も子どもたちから、元気をいっぱいもらいました。

今年度は、春の樹木の変化、秋は葉っぱの写し絵とドングリ工作、そして今回の冬芽観察の3回開催でした。終了後に教頭から来年度もよろしくと挨拶ありました。



<冬芽の説明>